

EXPO2025

SCHOOL NEWSLETTER

吉澤, 柚木, 井口, 吉村

Wednesday August 20th~Thursday August 21st

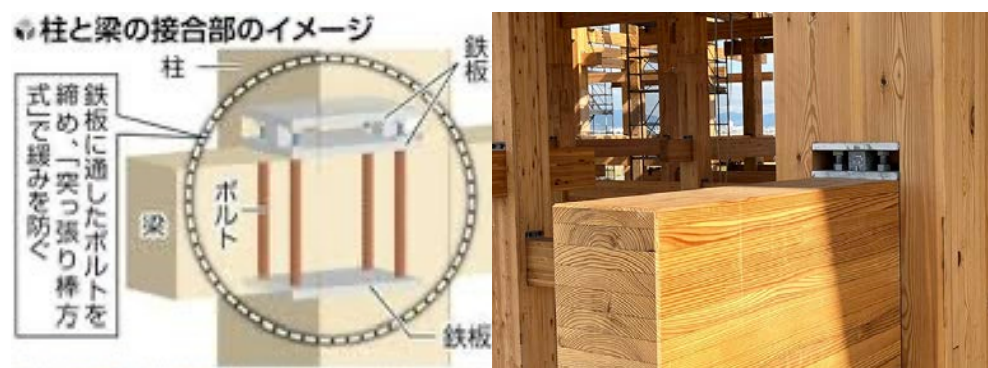
先日、大阪万博が開催された。中には日本の企業や世界中の国々がパビリオンを設置しており、最新技術や文化などを紹介していた。今回の万博探究では、「建築」という観点に着目し、各国の建築技術について見て学んだ。建築家の隅々まで渡るこだわり、材質にすら及ぶ環境への配慮、文化を重んじる心。伝えたいことは多くあるが、いくつか絞って記事を作成した。万博の魅力を詰め込んだため、是非読んでほしい。



万博のシンボル ～大屋根リング～

設計・監修 藤本壮介

2025年3月4日(火)に『世界最大の木造建築物』としてギネス世界記録に認定された大屋根リング。国産7割、外国産3割の木材で構成されている。この建設では、日本の伝統工法である「貫」が用いられている。「貫」とは、柱と梁（はり）を組み合わせる工法である。だが、それだけでは現代の建築基本法をクリアすることができない。そこで、楔（くさび）の部分に金属を用いることで、基準をクリアした。



(PW：パビリオンワールド)

また、各建築会社が担当した、PW北東工区、西工区、南東工区で楔が異なっている。これは、各建設会社のプライドだと藤本さんはおっしゃっていた。

最後に

ホテルや団体パビリオンの予約などの手配をして下さったJTBさん、資金面での援助や「こんな未来あったらいいな」の展示などをして下さったワイドレジャーさんなど、多くの方々のご協力のおかげでこの万博探究が成功したと思います。ありがとうございました。また、最後まで私達に寄り添って今回の探究活動を計画・引率してくださった新田校長先生、西口先生、岡本先生、伊藤先生、飯田先生、その他大勢の先生。このような機会を用意して下さい本当にありがとうございました。

フランス館～愛と技術のロマン～



(VOGUE JAPAN)

日本の建築家である重松象平（OMA）が設計した、84個のトランクケースが用いられたルイ・ヴィトンの展示

フランス館のテーマは「愛の讃歌」。職人技による数々の作品は、自国の文化や伝統を詰め込んだ至高の一品だった。中でも注目を集めたのは、ルイ・ヴィトンやディオールなど有名ブランドとのコラボ展示だ。また、天井が鏡張りになっており、自然と部屋全体に光を広げ、奥行きを作り出している。トランクの中は、職人たちの手仕事映し出されており、手作業だからこそ生まれる美しさは国境を越え、私たちの心に彩りを与えた。館内を流れる軽やかな旋律は国立音響音楽研究所との共同制作によって作曲され、歌詞がないからこそ、様々な国から訪れる私たちに共通の感動をもたらした。展示は、自国のものだけでなく、日本のジブリとコラボしたタペストリーなど開催国が日本である今回の万博ならではの作品も。湾曲通路によって誘われる魅惑の空間は天井から部屋の端まで目が離せない。劇場のような外観は夜になると多彩な色のライトに照らされ、昼間とはまた一味違った姿を見せてくれた。